



松林小だより

平成30年1月9日
学校便り No.11
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800



一生懸命

校長 瀬戸 隆幸

明けましておめでとうございます。旧年中は、保護者・地域の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。昨年11月に、保護者の皆様には「学校評価アンケート」にご協力いただきました。ご多用中にもかかわらず、ご協力くださりありがとうございました。皆様にご指摘いただいたことや教職員のアンケートなどをもとに反省・評価をして、平成30年度の教育課程を編成してまいります。学校は組織ですので、どうしても意見の多い方を選択していくようになりますが、少数意見であっても、それが子供たちにとって良いことであれば、校長のリーダーシップのもと、計画に取り入れ実行してまいります。毎年同じように思える松林小学校の教育活動も、少しずつ変わっているということをご理解ください。本年も本校の教育活動に対し、変わらぬご理解とご支援をいただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、話は変わりますが、毎年お正月には箱根駅伝が行われます。今年も昨年に引き続き青山学院大学が優勝し、史上6校目となる大会4連覇を達成しました。もちろん、どの大学の選手も、優勝を目標に一年間努力を積み重ねてきたことでしょう。しかし、優勝できるのは1チームだけなのです。今年は「1秒を削る」練習を積み重ねてきた昨年2位の東洋大学が、全区間1位で往路優勝を飾りました。しかし、復路は青山学院大学が全区間1位で、逆転の総合優勝を勝ち取りました。

駅伝は、各選手が襷を繋いでゴールを目指します。しかし、箱根駅伝のルールでは、トップのチームとのタイム差が20分を越えると繰り上げスタートとなり、自校の襷を繋ぐことができません。今年も何校かは、その悔しい思いをしました。それでも途中であきらめる選手は誰一人としていませんでした。とにかく一生懸命に走り、ゴールを目指していました。

この「一生懸命」という言葉ですが、語源的には「一所懸命」が正しく、「一所懸命の地(領地)」という形で、主に中世、武士間で用いられた語だそうです。したがって「一所懸命」は、「一か所の所領を、命にかけて生活の頼みとすること」で、それが転じて「生死をかけるような、さし迫った事態」さらには「命がけのこと」を意味するようになったのです。それが「命がけのこと」を意味する言葉として広く用いられるようになってから、「一生懸命」と字を変えるにいたったそうです。ゴールにたどり着いて倒れこむ選手の姿から、まさに「一生懸命」「命がけ」の様子が感じ取れます。優勝の可能性がないのに、どうしてそんなに必死になれるのか。それは、今年の頑張りが、来年に、さらにはチームの未来につながるからだそうです。一つでも順位を上げる、あるいは1秒でもタイムを縮める努力が未来につながるからこそ必死になれるのです。あきらめたらそこで終わり。無駄な努力はない。たとえ結果が伴わなくても、努力した分だけ自分の力となっていくのです。決してあきらめずに努力するからこそ未来が開けるのです。箱根駅伝の放送を見ながら、そんなことを考え、感動しました。

松林小の子供たちにも、自分の目標に向かって、決してあきらめることなく最後まで努力し続けられる「一生懸命な力」を身に付け、大きく成長していつてもらいたいと願っています。少しでもその手助けとなるよう、保護者・地域の皆様に支えられながら教職員が一丸となって教育活動を推進してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。